

# 令和3年度事業報告

## 概況

国は、すべての人材が能力を高め、その能力を十分に発揮できるよう、高齢者の活躍を推進する生涯現役実現加速を推進。経済は、コロナ感染症の完全な収束が見通せない中、回復の兆しも見えていたが、ロシアのウクライナ侵攻により行き先の成長下振れが懸念されている。

当センターは、前年経験した社会情勢の変化を踏まえながら、就業を通じて、地域社会を支える仕事に従事していること、ボランティア活動等社会参加を通じ、健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉に貢献していることを志に、地域のニーズに応えられる事業の実施や計画を行いました。

又、シルバー事業の魅力を発信し、一人でも多くの担い手を増やし、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高めあう地域共生社会実現の一助となるよう、会員が会員であることを誇れるセンターを目指しました。

令和4年3月末

会員数 475人

請負 受注件数4,038件 契約金額159,533,023円 就業延べ人員26,025人/日

派遣 受注件数 26件 契約金額25,239,552円 就業延べ人員5,094人/日

## 事業実施計画

### 1 基本的な考え方

公益法人としての運営基準と関係法令を順守し、社会情勢・環境の変化を柔軟に受け止め地域ニーズに就業を通し「生きがいづくり」「健康の維持」「仲間作り居場所」を提供することで、高齢者のため、地域を支えるセンターを目指しました。

### 2 基盤拡大

「自主・自立・共働・共助」の下 会員の自主的な運営が図れるよう役員が事業推進の体制整備について検討を重ねました。

また、センターの新たなイメージの発信を心がけました。

#### (1) 会員の拡大

会員相互の輪が高齢となっても支えあい安心して暮らせる地域の魅力に

なることや“就業は地域貢献”“ライフワークに合わせて気軽に”“新たな出会い”“スキルアップ”ができるシルバーの仕組み・魅力の周知・理解を図り会員拡大を図りました。

- ・ 女性会員拡大につながる講習会や広報活動事業を行いました。
- ・ 「会員による紹介入会促進活動」を推進しました。
- ・ 会員の定着と早期退会防止のため、新規入会者へ優先的な就業先の紹介を実施しました。
- ・ 新事業に合わせ新入会員を確保しました。
- ・ 退会希望会員にゴールド会員への移行を案内しました。
- ・ 会員紹介者対応や多種多様な経験・資格を保持する優秀な会員確保のため、必要に応じ随時入会を実施しました。
- ・ 新たな会員イメージを広げるためのチラシ、ポスター、広報紙掲載を行いました。

## (2) 就業開拓

適正就業ガイドラインによりシルバー人材センターの仕組みについての理解とマナーやルールの順守を図り、信頼されるセンターとしての対応をしました

コロナ禍に対応した多様な就業機会が提供できるよう 新たな受注先を確保し、高齢会員でも安心して就業できる就業内容、仕組みの検討を行いました。

- 事前、届け出の無い就業はできないことの再確認をしました。
- ・ 繰返し請負事業に対する正しい理解（会員の就業のしやすさのため）（同じ作業は同じ請求）や必要性の告知確認を行いました。
- ・ シルバーのセールスポイントは“会員が親切・丁寧・誠実”な就業であることの会員周知と確認を図りました。
- ・ 既存取引先・公共関係への役職員による訪問や電話により、顧客関係性を強化し、継続受注や新規受注、契約金額の増加を目指しました。
- ・ お仕事情報を発信し希望会員への速やかなマッチング・新規会員入会を図りました。
- ・ クレームのあった就業については、事務局・会員と共に解決にむけ、真摯に対応し、詳細を分析し、全体に周知を図りました。
- ・ シルバー事業の内容の周知を広めるため、新聞・広報誌・ホーム

ページ等により『お仕事募集』を行いました。

- ・役員・委員会や意見交換の場を設けワークシアリングを検討。

### 3 高齢者活用・現役サポート事業

介護・サービス業等の人手不足分野や現役世代を支える分野での就業の促進をしました。会員の育成環境整備とスキルアップを図りました。

- ・ 人手不足の福祉施設への派遣ができる会員の開拓講習会の実施
- ・ 職員に会員拡大・就業拡大の提案を行い、新しい生活様式を踏まえたセンタービジョンの構築を模索した。
- ・ 会員の請負理解を事業ごとに対応確認し就業の安定を図った。
- ・ 職員の対応、企画能力の評価をし働き方改革に即した事務体制の準備を進めた。
- ・ 問い合わせ企業等への初期対応を迅速に行った。
- ・ 市への派遣事業への理解、協力、育児支援・介護関連事業への参画ができるよう役職員がセンターの現況の説明・理解・提案を随時行いました。
- ・ 「地域福祉の担い手」として生活支援サービスを行い、同時に女性会員の拡大を図りました。
- ・ 育児支援等に興味や従事できる有資格者の会員募集を行いました
- ・ 人手不足分野、介護、学童保育、後継者育成等の講習会への参加・講習会を実施しました。
- ・ 市の関係部署からの情報収集、連絡を密にし、事業展開を図りました。
- ・ コロナ関連事業に対応できる講習会等を実施し次年度新事業に結びました。
- ・ 厚生労働省作成の適正就業ガイドライン等を活用し・基本法令を順守しました。

### 4 継続事業

#### (1) 衆楽茶屋

新しい生活様式を踏まえた事業展開をしました。そのために、速やかな運営ができるように津山市や地域への理解・協力を求めまた、会員地域の高齢者にとって居場所の1つになっているという声を多くいただき

ましたが、十分な事業実施はできませんでした。

## (2) チッパー事業

処分作業の経費削減、懸案事項の刈草の処分処理継続のため、会員各自の利用マナー・ルールを厳守と会員全体の協力を求めました。また、利用者還元を行いシルバー事業のアピールをしました。

- ・ 事業委員を中心に就業会員の協力努力で計画的な運営を図り継続可能な現場の整備を実施しました。
- ・ 利用会員の協力とモラル・互いの声掛助け合いの必要が不可欠であることを認識、実行します。
- ・ 防犯カメラの設置後の利用マナーが向上しました。

## (3) 高齢者支援（ワンコイン）事業

ボランティア活動の一環として特定の会員さんにご協力をいただき、利用者の方々から感謝評価いただきました。

## 5 空き家の管理事業

提案内容を再検討し事業を開始しました。

関係部署との連携強化を図り、今後、提案されている津山市との協定締結を完了し事業を推進します。

## 6 情報・普及啓発活動

輝く生涯・地域貢献をテーマにセンターの魅力・働くことで得られるものなど特に女性会員拡大のための魅力を発信して行きました。

- ・ ホームページに会員の活動状況・講習会日程・求人情報等タイムリーな情報を掲載しました。
- ・ 事業の内容やセンターの仕組みなど適正就業ガイドライン・シルバー人材センター事業概要により企業、公共訪問等の普及啓発活動を行いました。

## 7 講習会・研修会の実施・参加

コロナ禍で、センターでの会員全員への研修は実施できませんでしたが、技能向上や会員・役職員の資質向上を図るためのオンライン研修等の受講を実施いたしました。センターの基盤の強化と新しいイメージづくりのために感染予防を図りながら、一般参加できる講習会を開催し地域への周知・会員拡大を行いました。

- ・ 会員の技術習得・質の向上のための講習会の開催  
(樹木剪定・刈払機・感染症予防消毒・マナー講習)
- ・ 後継者育成のための体験研修会の開催（一般参加型）  
(樹木剪定)
- ・ 会員の健康や安全のための講習会の開催  
(交通安全・認知症サポーター)
- ・ 企業連携し一般参加のできる講習会の開催  
(スマホ教室・健康)
- ・ 全シ協・県連合会主催の講習会・研修会へオンライン受講参加し、センター会員への情報の持ち帰りとセンター事業運営に役立てました。
- ・ 公益法人、関係法令講習・研修等にオンライン受講参加し法令を順守しました。
- ・ 連合会主催各種講習会  
(感染症予防消毒・ドローン取り扱い・介護送迎運転者・放課後児童クラブ支援員剪定・草刈り・整理整頓暮らしの片付等) 新規入会希望高齢者の参加を促進し会員拡大、新事業立ち上げを図りました。

## 8 安全・適正就業の推進

常時、会員への声掛け等による安全対策・意識付けを行いました。会員各自が 安全・健康 = 自己管理 の意識を常に持ち就業できるように また、シルバー人材センターの就業は、臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業であることを、厚生労働省が示した適正就業ガイドラインを活用し、センターでの働き方について正しい理解・協力を求め、安全・適正就業の徹底を図りました。

発生 賠償事故 6 件 傷害事故 1 件

- ・ 「安全はすべてに優先する」を会員各自に確認してもらうため、日頃からの声掛けを実施しました。
- ・ 安全管理者・安全委員によるパトロールを実施し、安全・適正就業の徹底を図りました。
- ・ グループ就業時の各班長・リーダーが中心となって安全の確認（ミーティング）・事故防止を図りました。（安全点検表の活用）（現場での安全就業のぼり旗の掲揚）
- ・ 就業時のヘルメットの着用・安全装具装備等についての義務付の確認を会報等で広報しました。
- ・ 健康管理、自主的な健康診断の受診をお願いしました。
- ・ 運転免許所持者の安全運転講習等の受講を義務付けしました。
- ・ 賠償事故発生の会員免責の周知で安全管理の大切さを周知しました。
- ・ 賠償事故免責金により飛石防護ネットを購入し作業現場での使用を推進した。
- ・ 関係法令の順守の徹底をしました。

## 9 労働者派遣事業

新規派遣先の開拓等で、前年度の大きな実績の多少の回復はあったが、コロナ禍、企業の経営不振等により派遣契約の打ち切りがあり次年度に向けて厳しい状況となった。

- ・ コロナ禍を踏まえ派遣事業においては企業・福祉施設・学童保育等への就業開拓を行うと同時に、公共へ派遣就業への協力を引き続き求めていきました。
- ・ 新規お問い合わせには、地域の人手不足に貢献できるように業務内容を十分検討し法令順守で、無理のない派遣計画を提案実施しました。
- ・ 派遣事業会計統合の検討が行われ、令和4年4月1日より実施されることが決定した。
- ・ 働き方改革に伴う法改正を順守いたしました。

## 10 地域貢献活動

日常での支え愛（合）’を合言葉に地域活動、ボランティアを推進

し 地域貢献のできるセンターの周知を図りました。会員相互の繋がりを作るとともに、地域貢献する達成感を参加会員の声としていただき、周辺の皆さんからは感謝の声をいただきました。

- ・ 久米班による恒例となっている剪定等ボランティアの実施
- ・ 10月のグリーンヒルズでの清掃ボランティアの実施
- ・ 特定会員による日常でのハーフボランティアの実施

## 11 新規事業計画

### コミュニケーション・ワーキング多目的ルーム事業（仮称）

新入会の会員年齢が高くなるのと同時に入会を希望する高齢者の就業に対する変化もあり、センター入会で得られるものは生きがい就業ばかりではなかなか会員数を増やすことは難しく、会員でなければ得られない楽しいコミュニケーションの企画や場所が求められている。このことを踏まえ、生涯現役・人生100年に対応できるセンター作りのため、楽しみのあるセンターづくり会員相互のコミュニケーションを図り、ワーキングシェアや、後継者育成の促進のために会員が自由に使用できる場所の提供と事業実施の計画を理事会を中心に実施検討を進めた。実施については、コロナ禍の社会情勢で、計画実行が遅延。

## 12 継続強化実施事項

- ・ 危機管理体制の整備  
感染症が蔓延する中 緊急事態に対応できる体制を整え維持をしました。
- ・ 請負事業の基本的な進め方を繰り返し役職員、会員へ理解を求め、高齢者でも働きやすい事業運営体制の検討を実施継続した。
- ・ 就業求人情報について、十分ではありませんが、当センターホームページに掲載し、会員の拡大・後継者育成へつながるよう実施しました。
- ・ 随時入会希望者に対し入会説明会を実施し会員拡大をしました。
- ・ 笑顔のあふれるセンターを目指し努力しました。